

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

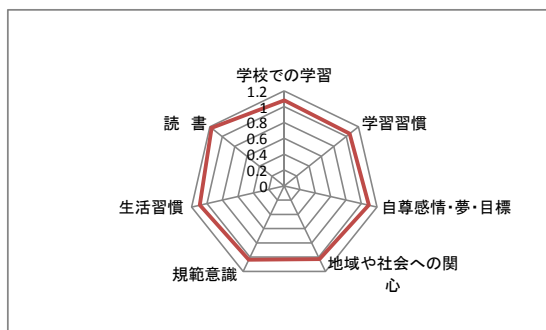
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っている問題が32問中2問と全体的に高い正答率である。 ・特に漢字を書く力が備わっている。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	特に文脈に即して漢字を正しく読む問題は、3問中2問が正答率100%であった。	上回っている
	努力が必要な問題	事象や行為などを表す多様な語句について理解する問題の無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての問題で全校平均正答率を上回っている。 ・特に要点をまとめる力が備わっている。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題の正答率が高かった。	上回っている
	努力が必要な問題	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題の無解答率が高かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っている問題が36問中3問と全体的に高い正答率である。 ・若干数量や図形などの知識・理解に課題があるので、復習が必要である。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解している問題の正答率が高かった。	上回っている
	努力が必要な問題	与えられた反比例の表において、比例定数の意味の理解を問う問題の無解答率が高かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は全国平均を上回っている。 ・記述で説明を求められる問題の無解答率が高いので、説明を求める問題に挑戦する姿勢を今後の授業で育てていく必要がある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題の正答率が高かった。	上回っている
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の無解答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の保有率は高いが、学校行事や学校配布物の啓発活動を通して、家庭内で約束をつくり、節度ある使用をしている生徒が多い。 ・充実した学校行事等を通して、多くの生徒が、学校での生活を友人とともに楽しく過ごしている。 ・発表の機会などを多く与えられているため、授業に対して積極的に参加し、教科の学習が将来に役立つと考える生徒の割合が高い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、「まとめ」を意識した発問を行う。 ・ノート指導を充実させ、ノートをとりやすい板書を行う。 ・話し合い活動が出来る学級作りと話し合い活動の実施。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣づけのため、SSノート(家庭学習ノート)を毎日提出させ習慣化を促す。 ・保護者会期間中や連休等の時間に学習課題を出し、家庭学習の習慣をつける。 ・委員会活動を通して、「あいさつ・服装・時間を守る」などの基本的な生活習慣の定着を図る。
--